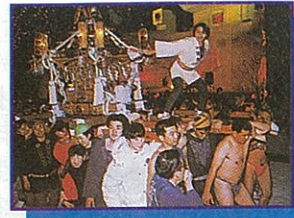


南会津のうりんニュース

第31号

平成12年12月11日発行
福島県南会津農林事務所



今月のトピック

グリーン・ツーリズムインストラクター養成研修会、全て終了

1月14日、南会津地方グリーン・ツーリズムインストラクター養成研修会（基礎コース第3回、実践コース）を田島建設会館で行い、28名が受講しました。

午前中に行った基礎コースでは、「安全対策と基本的な応急方法」と題して（財）農林漁業体験協会の宍戸信一氏より、グリーン・ツーリズムを行う上で考えられる様々な危険を想定して、これらを回避する方法や応急的な処置方法など詳しく指導していただきました。また、「ケガをした場合、その対応の仕方ひとつで、本人や家族の受け止め方が大きく違って来る」とインストラクターとしての事後ケアの重要性を説明しました。



緊急時の対応などを学んだ



フィールドでの実践研修

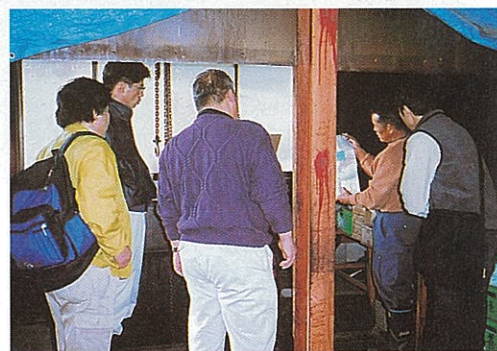
午後の実践コースでは、これまでの養成研修会の総まとめをする意味で、田島町の鳴山城跡周辺のフィールドを自然散策体験コースにみたくて、インストラクターがグリーン・ツーリズムを実践するために必要な話術やネイチャーゲーム、更には骨折時の応急方法や救助方法など実際に受講生が行って学びました。また、体験時に必要な携帯品や服装についても講師が見本となって分かりやすく受講生に指導していました。

今回で全4回の養成研修会が終了しましたが、受講生自身が研修の内容を実践する事によって、更に南会津のグリーン・ツーリズムが質の高いものになると期待されます。（地域農林企画室）

林業教室（基礎講座）を開催しました

11月24日に、下郷町で林業教室（基礎講座・第3回）を開催しました。今回は「きのこを中心とした特用林産について」をテーマに実施しました。

午前中は、役場にて農林事務所職員より、テーマについて講義を行いました。午後は、県林業普及指導協力員で多種のきのこを生産されている渡部さん（下郷町奥田）からの栽培施設、栽培林内等でナメコ・マイタケをはじめとしたきのこ栽培の実際について指導を受けました。教室生には「マンネンタケ」等、初めて耳にするきのこもあり、興味深く研修を受けていました。次回の林業教室は12月に行う予定です。（森林林業部）



きのこ栽培施設での指導



間伐木の選定・伐採講習

間伐・枝打ち講習会が開催される

11月15日に、下郷町中山地区において、下郷町林業振興協会主催（玉川眞吾会長）による「間伐・枝打ち講習会」が行われ、協議会会員をはじめ、森林組合、町役場農林課、農林事務所の職員が参加しました。

まず、農林事務所職員から間伐・枝打ち、また、造林補助金制度等についての話の後、会員所有のスギ林内で実際に、間伐木の選定、伐採を全員で行いました。良質材生産のために“間伐・枝打ち”が大切な作業であることを、参加者は改めて確認していました。

同協議会では、今後もこのような林業施業に対する研修を続けていくとのことです。（森林林業部）

緑の文化財愛護活動が行われる

11月8日に、只見町大倉地内の「比良林のサラサドウダン（S58年緑の文化財指定）」がある比良林公園の清掃作業が明和小学校3年から6年生（緑の少年団は4年から6年生）らの手によって行われました。

まず、学校で農林事務所および地元の方から「森林の働き」「比良林サラサドウダンの由来」等についての話を聞いた後、公園に移動して全員で作業を行いました。また、作業後は「森のクイズ大会」を実施して、楽しく森林に対する理解を深めました。

園内の落葉等もたくさん集まりましたが、これは学校に持ち帰り、学校農園の肥料とするそうです。

また、この活動は今年行われた全国育樹祭を契機とした「うつくしま森林づくり2000」事業の一環（本誌30号参照）として、位置づけられています。（森林林業部）



明和小の生徒による清掃作業

首都圏地区観光懇談会で南会津をPR

11月10日、来年7月に開催する「うつくしま未来博」や四季折々の美しい風景等の観光情報を旅行エージェントとマスコミ関係者に知っていただくため、福島県と社団法人福島県観光連盟の主催で首都圏地区観光懇談会が東京都で開催されました。当事務所からもこれに参加し、南会津地方のグリーン・ツーリズムを紹介・PRしてきました。

福島県観光概況の説明、うつくしま未来博のプレゼンテーションを行った後の個別懇談会では、「南会津グリーン・ツーリズムガイドブック」を使って南会津地方におけるグリーン・ツーリズムの取組を旅行エージェントに説明しました。各旅行エージェントも体験旅行の需要が増えてきているのを認識しているせいか興味を示していました。

当地域だけでなく各旅行エージェントや県内の他地域でも、グリーン・ツーリズムに関する各種パンフレットを作成するなど積極的な取組を始めているライバル出現に危惧の念を感じました。インストラクターなどの人材養成をおこなって、早期にグリーン・ツーリズムを地域定着させる必要があると思われました。

（地域農林企画室）

お知らせ

「健全な食生活推進研修会」と「南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会」 開催のご案内

来年1月18日に、農林水産業とグリーン・ツーリズムの理解を深めていただくため、下記の研修会と推進大会を開催いたします。参加料は無料ですので皆さんお誘い合わせの上多数ご参加下さい。

①健全な食生活推進研修会

と き：平成13年1月18日（木） 10時～12時

と ころ：田島建設会館

内 容：講演① 『「食」と農村交流 ～郷土食をグリーン・ツーリズムに生かすには～』

講師：福島大学行政社会学部助教授 岩崎 由美子氏

講演② 「おいしいごはんて食生活」（仮題）

講師：県水田農業振興課職員

②南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会

と き：平成13年1月18日（木） 13時～15時40分

と ころ：田島建設会館

内 容：基調講演「グリーン・ツーリズムにおける農村女性と高齢者の役割」（仮題）

講師：岩本 充氏（喜多方農業体験塾）

先進地視察報告「オーストリアのグリーン・ツーリズム見聞録」（仮題）

講師：田島町海外見聞大使代表者

申し込み・問い合わせ

南会津農林事務所 地域農林企画室まで

TEL：0241-62-5866 FAX：0241-62-5259 E-mail：m-nourin@akina.ne.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

この人を知りたい

“南会津産ひとめぼれを献上された・・・”

伊南村古町 渡部 昌仲さん

伊南村古町に住む渡部昌仲さん（57歳）は、県立南会津高校を卒業後、すぐに家業である農業に就きました。その後農業一筋、現在も専業農家として奥さんの善子さんと共に水田5.2haを経営しております。水稻の品種は「ひとめぼれ」を主体としており、転作田にはソバの栽培を行っています。

水稻栽培は、耕起から収穫、出荷作業まで一貫して自己完結型農業で、常に高品質米の生産・出荷に心がけておられます。

渡部さんは、平成8年伊南村議会議員に当選され、以来産業常任委員として、また、同年から伊南村農業委員として伊南村の農業振興にご尽力を頂いております。また、平成9年には、水稻を主体とした認定農業者となり、他産業並の所得の確保を目指して努力しております。さらに、農村の少子高齢化の進むなかで、地域の農業生産の基盤を維持していくために、土地改良事業の必要性を痛感し、平成4年に始まった古町地区の担い手基盤整備事業には、自ら事業組合の役員をかって出て、換地委員として活動されております。

今年は、皇室新嘗祭の献上米献納者に推挙され、伊南村で初めての献穀者となりました。去る6月5日、多数の来賓を迎え御田植祭が行われ、その後、ご夫婦で丹誠込めて育てられ、10月10日、豊かな実りの秋を迎え、青空のもと抜穂祭が行われ



渡部夫妻（右上写真）と御田植祭

ました。10月26日には、一粒一粒を選びすぐった「ひとめぼれ」を、皇室賢所で執り行われた献穀米献納式で献穀してこられました。

今年は天候に恵まれ、渡部さんの水田も豊作となりましたが、米価の低迷によりかなりの減収は避けられない状況です。これからも消費者に喜ばれる米作りを目指されると共に、伊南村の農業発展のため更なるご尽力を頂きますようご期待いたします。

（農業振興部）

JAPAN EXPO IN FUKUSHIMA 平成13年7月7日
うつくしま未来博 ~9月30日

美しい森・川・海を次世代へ。

農林水産館

農林水産館は、「水の循環」を基本軸として、豊かで美しい空間の創出・維持に果たしている「福島の農林水産業」の姿をテーマに、県農林水産部が出演するパビリオンです。



うつくしま産みの市場 グリーンパビリオン 農林水産館（本館）



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
① 南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会	1月18日（午後）	田島建設会館
② 健全な食生活推進大会	1月18日（午前）	田島建設会館
③ 「フォークリフト操作基本」	1月16日～17日	農業短期大学校
④ 「農業機械作業のコスト計算と作業安全管理」	1月22日～24日	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 TEL 0241-62-5866
南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

黒沢明監督の「七人の侍」は、1954年に初めて上映された大変古い映画ですが、脚本、音楽、映像、アクションとどれをとっても映画史上指折りの作品です。

時は戦国時代、やっとの思いで収穫した農作物を毎年のように野武士に強奪されている農民が、村を守るために侍を雇い、自らも竹槍を取って雨中の壮絶な戦いの末、ついに野武士を全滅させるというストーリーです。登場人物の一人ひとりが、みんな個性豊かに生き生きと描かれていました。

それはさておき、南会津地方の「七本の木」としてはどんなものがあるだろうか。

まず、針葉樹ではスギ、アカマツ、カラマツが思い浮かぶ。広葉樹ではブナ、トチノキ、コナラ、それにオオヤマザクラを加えてこれ七本となる。県の木ケヤキや只見川沿いのキリはどうして入れないと言われるそうですが、ここでは次点としてあきらめてもらいます。

スギ 幹は真っすぐに伸び、神木として信仰の対象になる例もある。これはさしあたり宮口精二演じる剣の求道者・久蔵に当てはまる。

アカマツ 日本の風景になくはない木のひとつで、幹も葉も明るく美しい。これは千秋実演じるとぼけた男・平八だ。

カラマツ 若い時は、ねじれ・節など扱いにくいですが、年数を経れば非常に強く木目も美しくなる。三船敏郎演じる暴れん坊だが心やさしい菊千代以外考えられない。

ブナ 近年は森のスーパースターで、高く大きく枝葉を広げた姿はすべてを温かく包み込んでくれるようだ。志村喬演じるリーダー・勘兵衛がピッタリである。

トチノキ 谷筋に生え、大木になり葉も大形で秋には大きな実をつける。このおおらかさは、加東大介演じる勘兵衛の女房役・七郎次。

コナラ 南会津に限らず、日本中の雑木林に見られる最もなじみ深いどんぐりの木。これは稲葉義男演じる飾り気がなく皆から慕われる五郎兵衛。

オオヤマザクラ 山中に生え、春遅い山里が萌黄色に変わる頃紅色の美しい花を咲かせる。村の娘に恋をする木村功演じる勝四郎が似合う。

山は、色々な木があってこそ豊かな景観をつくり、木造建築をはじめ家具や器具など私たちの身近な生活に役立つ材料のほか、きのこ・山菜類などを提供してくれるものです。

南会津の山は、また贈り物の準備のために、葉を落としてしばしの眠りに入りました。

森林林業部長 大平 晃正

農林ひとくちメモ

南会津特産「ひめかみ」

南会津地域の豊かな自然ときれいな空気に育まれたリンゴ「ひめかみ」は、太陽のように赤く、蜜が入った甘酸っぱいリンゴで、現在、南会津地方の特産果樹として力を入れて生産しています。

「ひめかみ」は「ふじ」に「紅玉」を交配して育成された新品種です。南会津地域では9月下旬から10月中旬に収穫されるため、「つがる」と「ジョナゴールド」をつなぐ品種として大変有望です。肉質は緻密で果汁が多く、常温でも4～5週間、冷蔵では2ヶ月の長期間貯蔵ができます。

南会津の豊かな自然を満喫し、おいしい「ひめかみ」を食べてみて下さい。

(農業普及部)



真っ赤でおいしそう「ひめかみ」

あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail m-nourin@akina.ne.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

雪中御輿 (只見町)

只見ふるさと雪祭り(2月10～12日)

問い合わせ



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

